



# 農業景況DI 2015年は大幅改善 調査開始以来 最高値

—2015年下半期 農業景況調査—

日本公庫の農業資金をご利用いただいているお客さまを対象に、2015年下半期の農業景況調査を行いました。結果概要を紹介します。

府県▲三〇・九↓二九・三)、肉用牛(▲一・二↓四八・五)、採卵鶏(二八・六↓七一・〇)、ブロイラー(二〇・四↓五一・九)の七業種については、調査を開始して以来、最高値となりました。

販売価格が低迷している茶は一・九ポイントの上昇(▲五五・〇↓▲五三・二)と、改善幅はわずかで、依然として低い状況にあります。

**一六年見通しは慎重**

一六年の農業全体の景況DI見通しは、一五年の実績から一七・八ポイント下落(一六・八↓▲一・〇)となりました。

一五年が好調だった稲作(北海道二〇・一↓▲一九・一)、畑作(三五・二↓▲六・五)、露地野菜(一四・三↓▲一五・〇)、酪農(北海道五五・九↓二六・三)、肉用牛(四八・五↓二二・九)、養豚(四八・八

一方、国内消費量の減少などで

施設野菜(▲八・四↓二〇・三)、酪農(北海道▲四・一↓五五・九、都

施設野菜(▲八・四↓二〇・三)、酪農(北海道▲四・一↓五五・九、都

酪農(北海道▲四・一↓五五・九、都府県▲三〇・九↓二九・三)、肉用牛(▲一・二↓四八・五)、採卵鶏(二八・六↓七一・〇)、ブロイラー(二〇・四↓五一・九)の七業種については、調査を開始して以来、最高値となりました。

## 過去一五年で景況最高値

二〇一五年(一〜二月)の農業全体の景況感を示す景況DIは、多くの業種で一四年に比べて大きく改善し、五〇・五ポイント上昇しました(▲三三・七↓一六・八)(図1)。

プラス値に転化したのは三年ぶり、一九九六年に調査を開始して以来の最高値となりました。

これは、多くの業種で販売価格が好調に推移したこと、燃料価格の下落、および配合飼料価格に落ち着きが見られたことにより、収支が改善したことが要因と考えられます。

特に、畑作(▲五・三↓三五・二)、

図1 「景況」天気図

経営部門	2014年	2015年	2016年	
	実績	実績	通年見通し	
農業全体	▲33.7	16.8	▲1.0	
耕種	稲作(北海道)	▲67.2	20.1	▲19.1
	稲作(都府県)	▲71.0	▲3.8	▲6.4
	畑作	▲5.3	35.2	▲6.5
	露地野菜	▲15.7	14.3	▲15.0
	施設野菜	▲8.4	20.3	18.8
	茶	▲55.0	▲53.1	▲31.0
	果樹	▲12.7	11.5	19.6
	施設花き	▲34.4	▲5.9	9.1
	きのこ	▲20.7	15.2	16.5
	畜産	酪農(北海道)	▲4.1	55.9
酪農(都府県)		▲30.9	29.3	27.7
肉用牛		▲1.2	48.5	12.9
養豚		67.5	48.8	▲24.5
採卵鶏		28.6	71.0	▲35.4
ブロイラー	10.4	51.9	7.7	

[DI]の値とお天気マークの関係



三・一ポイント上昇(▲四〇・〇)↓  
農業全体の販売単価DIは、五

**収支改善で投資意欲に伸び**

東北および北陸は回答全体に占める稲作の割合が六〜八割と高いため、稲作の景況回復が大きく寄与したものと考えられます。他方北海道は稲作や酪農をはじめ、大半の業種で大幅に改善したため、地域別景況DIが全国で最も高くなりました。

二〇一五年は全ての地域で景況DIが改善しました(図2)。特に、東北は六五・五ポイント上昇(▲五三・三→一二・二)、北陸は六四・〇ポイント上昇(▲六七・八→三・八)、北海道は六四・〇ポイント上昇(▲三二・七→三二・三)と大きく改善しました。

**稲作主体地域の改善顕著**

茶(▲五三・一→▲三一・〇)については、依然としてマイナス値ではあるものの、二二・二ポイント上昇し、マイナス幅が縮小しました。

↓▲二四・五)、採卵鶏(七一・〇)↓▲三五・四)、ブロイラー(五一・九→七・七)については、大幅に下落し、やや慎重な見通し判断になっています。

図3 「販売単価」天気図

経営部門	2014年		2015年	
	実績		実績	
農業全体	▲40.0	↗	13.1	
耕種	稲作(北海道)	▲88.6	↗	10.1
	稲作(都府県)	▲88.2	↗	7.0
	畑作	▲30.5	↗	▲15.4
	露地野菜	▲33.5	↗	▲10.0
	施設野菜	▲32.8	↗	▲0.6
	茶	▲64.0	↗	▲59.4
	果樹	▲25.4	↗	10.9
	施設花き	▲47.0	↗	▲15.4
	きのこ	▲22.0	↗	▲6.4
	畜産	酪農(北海道)	59.3	↗
酪農(都府県)		23.0	↗	61.7
肉用牛		46.4	↗	85.8
養豚		84.1	↘	26.9
採卵鶏		53.6	↗	74.0
ブロイラー	10.4	↗	28.8	

図2 「地域別景況」天気図

地域 [ ]内は都府県名	2014年		2015年		回答に占める 稲作の割合(%)
	実績		実績		
北海道	▲31.7	↗	32.3		39.3
東北 [青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島]	▲53.3	↗	12.2		64.8
関東 [茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野、静岡]	▲27.4	↗	10.5		22.1
北陸 [新潟、富山、石川、福井]	▲67.8	↗	▲3.8		81.9
東海 [岐阜、愛知、三重]	▲19.9	↗	4.1		12.2
近畿 [滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山]	▲35.1	↗	5.5		42.2
中四国 [鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知]	▲20.1	↗	18.4		23.8
九州 [福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島]	▲6.9	↗	16.4		9.5

■天気図の見方について

天気図は、次のようにして算出されたDI (Diffusion Index) と呼ばれる指標により作成しています。アンケートの各項目への回答は、「①良くなった ②変わらない ③悪くなった」から1つ選ぶ形式となっており、この3種類の回答数を計算し、その構成比(%)を用いて次式によりDIを算出します。「①良くなった」(%) - 「③悪くなった」(%) = DI

一三・二)となりました(図3)。特に稲作では、飼料用米生産の拡大で需給が引き締まったことなどにより、北海道は九八・七ポイント上昇(▲八八・六→一〇・一)、都府県は九五・二ポイント上昇(▲八八・二→七・〇)し、三年ぶりにプラスに転じました。一方、茶は四・六ポイント上昇(▲六四・〇→▲五九・四)したものの、依然として厳しい状況にあります。

生産コストDI(図4)は、燃料価格の下落や配合飼料価格の落ち着きによりやや改善し、農業全体は二一・六ポイント上昇(▲六六・三→▲四四・七)しました。

販売単価の上昇や生産コストの下落などを受けて、農業全体の収支DI(図5)は五三・九ポイント上昇(▲三九・七→一四・二)、農業全体の資金繰りDI(図6)は三六・八ポイント上昇(▲二九・二→七・六)し、ともに大幅に改善しました。

農業全体の設備投資見込みDIは、一八・三ポイント上昇(▲三二・一→▲一一・八)しました(図7)。多くの業種で改善が見られる中、特に、畑作は二五・八ポイント上昇(▲二五・六→〇・二)、採卵鶏は一五・一ポイント上昇(▲七・一→八・〇)、ブロイラーは一六・〇ポイント

図5 「収支」天気図

経営部門	2014年		2015年	
	実績		実績	
農業全体	▲39.7	↗	14.2	
耕種	稲作(北海道)	▲67.2	↗	21.3
	稲作(都府県)	▲71.0	↗	▲6.5
	畑作	▲5.3	↗	33.9
	露地野菜	▲15.7	↗	5.7
	施設野菜	▲8.4	↗	15.3
	茶	▲55.0	↗	▲52.4
	果樹	▲12.7	↗	6.3
	施設花き	▲34.4	↗	▲8.1
	きのこ	▲20.7	↗	11.4
	畜産	酪農(北海道)	▲4.1	↗
酪農(都府県)		▲30.9	↗	25.4
肉用牛		▲1.2	↗	50.8
養豚		67.5	↘	50.2
採卵鶏		28.6	↗	63.0
ブロイラー		10.4	↗	42.3

図4 「生産コスト」天気図

経営部門	2014年		2015年	
	実績		実績	
農業全体	▲66.3	↗	▲44.7	
耕種	稲作(北海道)	▲69.0	↗	▲36.5
	稲作(都府県)	▲53.2	↘	▲63.7
	畑作	▲78.2	↗	▲56.8
	露地野菜	▲67.5	↗	▲41.0
	施設野菜	▲63.4	↗	▲30.1
	茶	▲72.5	↗	▲48.4
	果樹	▲67.0	↗	▲33.5
	施設花き	▲72.8	↗	▲43.0
	きのこ	▲74.4	↗	▲46.4
	畜産	酪農(北海道)	▲80.4	↗
酪農(都府県)		▲83.6	↗	▲46.6
肉用牛		▲81.9	↗	▲63.1
養豚		▲59.8	↗	▲17.7
採卵鶏		▲78.6	↗	▲32.0
ブロイラー		▲59.7	↗	▲44.2

ト上昇(▲四・五↓一・一・五)し、プラス値に転じました。また、養豚は三・一ポイント下落(一・一・八↓八・七)したものの、プラス値を維持しました。

### 労働力確保に課題

今回の調査より、新たに「雇用状況の実績」について聞きました(図8)。

その結果、農業全体の雇用の過不足感を示す雇用状況DIは、▲二・六・三となりました。全ての業種で二桁のマイナス値であり、農業分野での労働力不足が浮き彫りとなりました。

本調査の詳細な内容や公表資料などは、当公庫ホームページ(<https://www.jfc.go.jp/n/findings/pdf/topics160322a.pdf>)に掲載しておりますので、参考にしていただければと思います。

(情報企画部 浅野 真宏)

#### 【調査概要】

- 調査時点・方法  
二〇一六年一月・郵送調査
- 調査対象  
スーパーL資金／農業改良資金  
融資金(計二万三六一八先)
- 有効回答数  
六七三三先(回収率二八・五%)

図6 「資金繰り」天気図

経営部門	2014年		2015年	
	実績		実績	
農業全体	▲29.2	↗	7.6	
耕種	稲作(北海道)	▲52.4	↗	8.2
	稲作(都府県)	▲59.2	↗	▲10.7
	畑作	▲10.4	↗	19.9
	露地野菜	▲14.2	↗	2.3
	施設野菜	▲10.6	↗	16.0
	茶	▲43.7	↗	▲41.3
	果樹	▲14.8	↗	1.4
	施設花き	▲34.4	↗	▲6.8
	きのこ	▲29.3	↗	10.1
	畜産	酪農(北海道)	▲6.3	↗
酪農(都府県)		▲26.2	↗	26.5
肉用牛		▲6.1	↗	27.8
養豚		59.3	↘	45.0
採卵鶏		26.8	↗	56.0
ブロイラー		3.0	↗	38.5

図7 「設備投資見込み」天気図

経営部門	2014年		2015年	
	実績		実績	
農業全体	▲31.1	↗	▲12.8	
耕種	稲作(北海道)	▲47.9	↗	▲11.8
	稲作(都府県)	▲35.1	↗	▲9.9
	畑作	▲25.6	↗	0.2
	露地野菜	▲30.4	↗	▲16.2
	施設野菜	▲30.8	↗	▲22.9
	茶	▲39.4	↘	▲43.7
	果樹	▲36.6	↗	▲23.6
	施設花き	▲47.4	↗	▲43.8
	きのこ	▲26.8	↗	▲10.3
	畜産	酪農(北海道)	▲27.2	↗
酪農(都府県)		▲14.4	↘	▲23.4
肉用牛		▲17.8	↗	▲0.3
養豚		11.8	↘	8.7
採卵鶏		▲7.1	↗	8.0
ブロイラー		▲4.5	↗	11.5

図8 「雇用状況」天気図

経営部門	2015年	
	実績	
農業全体	▲26.3	
耕種	稲作(北海道)	▲26.7
	稲作(都府県)	▲18.8
	畑作	▲33.6
	露地野菜	▲34.9
	施設野菜	▲24.1
	茶	▲26.6
	果樹	▲25.6
	施設花き	▲26.8
	きのこ	▲26.6
	畜産	酪農(北海道)
酪農(都府県)		▲25.8
肉用牛		▲24.7
養豚		▲35.6
採卵鶏		▲31.0
ブロイラー		▲15.4